# **NEWS RELEASE**



2021年7月8日

各位

## 東京目黒水素ステーションにおける 山梨県産グリーン水素の利用に係る合意書の締結について

当社(社長:大田 勝幸)は、本日、山梨県(知事:長崎 幸太郎)と、再生可能エネルギー由来のグリーン水素(以下、再エネ由来グリーン水素)の供給に関する合意書を締結しましたのでお知らせいたします。同県で製造される再エネ由来グリーン水素を当社の東京目黒水素ステーション(東京都品川区)における燃料電池自動車への充填に使用し、モビリティ分野におけるグリーン水素の利用を拡大することで、持続可能な低炭素社会の実現を目指すものです。

当社は脱炭素に向けた本格的な水素の大量消費社会を見据えて、国内外でCO2フリー水素サプライチェーン構築に取り組んでいます。国内においては、自動車用燃料供給に関わるインフラやノウハウを活用した水素ステーションネットワークの強化に加え、供給する水素のCO2フリー化を推進しています。

一方、山梨県は、2050年までに県内の温暖化ガス排出量を実質ゼロにする目標を掲げています。この目標に向け、P2G<sup>\*1</sup>システムの実用化を加速させるため、同県の米倉山電力貯蔵技術研究サイトにおいて、太陽光発電による電力で水を電気分解することでグリーン水素を製造し、安全に貯蔵・輸送し、市民生活の中で利用するという実証実験に取り組んでいます。

今般の合意に基づき、同県は米倉山で製造された合計約600Nm³(ノルマル立方メートル)の再エネ由来グリーン水素を7月から9月の3カ月の間に2回にわけて同ステーションに輸送し、当社は本グリーン水素を燃料電池自動車に供給します。

当社は、本事業を始めとした水素の利活用の推進を更に強化し、持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) の目標 7 「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、目標 9 「産業と技術革新の基礎をつくろう」および目標 1 3 「気候変動に具体的な対策を」の達成に貢献してまいります。

- ※1 Power to Gas:太陽光発電などの余剰電力を水素などの気体燃料に変換し貯蔵すること。
- ※2 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の大会用車両に対する当社の水素供給体制については3枚目の別紙をご参照ください。

## とどけ! 熱いエネルギー ENEOS

### <今回の合意に基づくグリーン水素の供給フロー>



### <東京目黒水素ステーション概要>

開所日	2016年3月14日
所在地	東京都品川区上大崎二丁目21-18
運営者	株式会社ENEOS水素サプライ&サービス
敷地面積	6 3 8 m <sup>2</sup>
供給方式	オフサイト方式 (圧縮水素を水素トレーラー等で輸送)

### <ステーション外観>



以上

# とどけ! 熱いエネルギー ENEOS

### (別紙)

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の大会用車両に対する当社の水素供給体制

### < 大会用車両に水素を供給する当社水素ステーション (7カ所) >

当社は東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会において、大会用車両として投入される約500台の燃料電池自動車に、以下7カ所の当社水素ステーションにおいて、東京 2020 オフィシャル水素「ENEOS水素」を供給いたします。

ステーション名称		所在地
1	Dr. Drive セルフ潮見公園店 (福島県内で製造した水素の販売拠点)	東京都江東区
2	東京目黒水素ステーション (山梨県内で製造した水素の販売拠点)	東京都品川区
3	千葉幕張水素ステーション	千葉県千葉市美浜区
4	東京大井水素ステーション	東京都品川区
<b>⑤</b>	東京高輪ゲートウェイ水素ステーション	東京都港区
6	東京晴海水素ステーション	東京都中央区
7	川崎高津水素ステーション	神奈川県川崎市高津区

<sup>※</sup>大会用車両の運行ルート等によっては、上記以外の当社水素ステーションでも供給いたします。

#### <大会用車両に供給する水素について>

当社が大会用車両に供給する水素の一部には、復興の地・福島県の「福島水素エネルギー研究フィールド」(福島県浪江町) および山梨県米倉山電力貯蔵技術研究サイト(山梨県甲府市) において製造される再生可能エネルギー由来の水素を利用することで、東京 2020 大会を盛り上げていきます。



東京2020ゴールドパートナー (石油・ガス・水素・電気供給)

# とどけ! 熱いエネルギー ENEOS